

# 吉田寮の'人'間関係

## —とある留学生の視点から—



吉田寮の人間関係はどういった関係であるのか。正直、私にはよくわからない。

友達関係であるかではないか、家族関係であるかではないか、なんというか、いかにも現代日本（多分だけではない、他の国）においてかなり変わった、異なった、特徴のある「人間関係」であると思う。ある意味で、今頃外の社会に珍しく、素直な、近親感のある魅力的な「人間関係」があると思う。ただ思いついた点だけ、並んでおこう。

## 相部屋であること

吉田寮の居室は基本的に相部屋である。きっと寮の誰かが、自分の相部屋になること。

一つ言っておこう。確かに相部屋は吉田寮の人間関係の形成にかなりの役割を果たしていることを否認しないが、ただ、吉田寮の人間関係はこれだけではない。

どんな人と相部屋になるのか、入寮して一年目はあまり選べないが、二年目以降若干選べるようになる。寮生には大体男子学生は多いが、近頃女性も増えてきた。でも女性の大半はおそらく留学生である。留学生は既に4分の1か3分の1程度に増えてきた。全体的に学部生が多いが、院生も多い、研究生や聴講生などもある。家族、子供連れの人もあるし、珍しいが猫を連れてきた人もいる。しかし、やはり家族やペットを連れてくる人と相部屋になれるかどうかまだ相談の必要がある。

私は色んな人と相部屋になった経験がある。でも、部屋の使い方によって、また相部屋との関係が変わってくる。

例えば、二人一部屋の時があった。でも、ちょっと難しい感じがする。なぜなら、二人の寝起きとも同じ部屋だから、生活リズムが合わないときに矛盾が生じる。そのときに、二人でゆっくり相談して何とか解決したが、やはり互いに我慢せざるを得ないところが多かった。

例えば、四人で二部屋を使う時もあった。一部屋をリビング兼勉強部屋に、もう一部屋は寝部屋にした。これはかなり人間関係がうまく行った使い方であった。時々さらに回りの人を呼び、十数人もただ8畳の間に入り込み鍋を囲んだりしていた。

少ないが、吉田寮には10人以上の寮生で4、5部屋に住むという事例がある。大体男性同士だったら、実現しやすいようなスタイルである。これはまだ楽しいことで、その共同のリビングである部屋はまるで一種の「公共圏」のようで、部屋の住人だけではなく、寮生でも寮生の友達でも、様々な人の集まり場となりつつある。時には会議の場でもある。

一人では淋しいと思うが、相部屋では多少プライベートの面では欠けているかもしれない。

でも、社会に入っても一人じゃ生きていけない、寮に居る間はちょうど家族以外の人と生活し、外国人と生活するといういい練習の機会ではないか。



ま〜人間は常に矛盾の中に生きる動物だから、仕方があるまい。

## 吉田寮に人の呼び方

どうも、日本語では「名字+さん」という習慣的な呼び方があるようだ。これは所謂一般的であるのだろうか。

でも吉田寮には、こういう定式はない。が、明らかに「さん」をきちんと付ける人、適度に付ける人、とある特定人物にしか付けない人、ほとんど使わない人、という大きく数類に分けることができるようだ。

まことに奇妙なことで、同じ人に対しても、異なる場面で「さん」の使い方が異なるようである。例えば、明らかに先輩で年も上の人によく

「さん」が使われている。しかし、麻雀をやっている人はときとき明らかに自分より年も下である後輩にも使う。これは、私の観察により、多分麻雀をやってほしいのか、それとももしかして、まけてしまったのかのいずれかが原因であるかもしれない。なぜか、私のような複雑なことをうまく説明することができない。

到底、私のような外国人にとっては、日本語は外国語である以上、自ら正しいかどうかを判断できるような外国語のレベルもまだ到達できていなければ、自ら新たな言語を創出するようなまねもしたくない。

外国人である私にとっては、呼び方の微妙な違いから人間関係の微妙な違いを探れることはまだできてないって、多少その気がする。どうも、探れることは伝説の日本語の「最高峰」となるかもしれない。

では、留学生の皆さん、目指せーのだ！



## 吉田寮の上下関係



ということで、単に呼び方からでは、日本において有名は「上下」関係、先輩後輩関係を探ることが難しいという私には、微妙であるが、どうも吉田寮にも所謂「上下」関係が存在するかもしれない。

なんていうのか、私は研究室やら、バイト先やらの「上下」関係にとっても悩ませれている。なんていうのか、理不尽、本当に理不尽だ。外の世界で様々を経験したうえで、帰って吉田寮のことを考えると、また奇妙な感じがする。

吉田寮には自治会がある。委員長にあたる者も、各専門部や局にも部長や局長がある。どうも、「管理的」であるか、「リーダー的」であるかのような感じがする。実際に現在の吉田寮では、部長

や局長達が会議を招集、事項報告、日常業務の履行、何から何まで行っている。うまく行っている部局は衆智を上手に引き出しているが、少数である。大半の部局長はいつも最も仕事を頑張っている人物である。それもまた結構頑張っている人が少なくない。これは、つまり毛沢東がいうような「人民のために！」って感じ？なんというのか、すばらしい。

確かに、「自治」の実行では、(アソシエーション？組織？における)各個人とも自らの自己管理機能を発揮しつつ上で、ネットワークを形成する過程があるが、個人間の動きをうまく合わせ、独立した個人を連携し、上手に調節する必要となる役割を果たす「人」或は「要素」が必要だ。徹底的な、個人の「自治」も必要だが、「組織」全体を集約する役割を果たす「部局長」の皆さんも不可欠だろうか。

つまり、吉田寮の「上」は独立した個人=寮生の皆さん、「下」はその連携する役割を果たす個人=各部局長の皆さんということになるのだろうか。



結局、吉田寮の上下関係について、如何に評価すればよいのか、私にはよくわからない、むしろ読む人、吉田寮に住む人自分で感じてもらった方がいいだろう。

## 吉田寮の人間と猫の関係、猫と猫の関係

なぜなら、吉田寮の猫は吉田寮の一部である。そして、そのなかの何匹の猫が、寮生の誰よりも遥かに長い間寮にいるからである。さらに、猫を通じて、寮生と寮生の相互関係が発生し、変化している。

吉田寮の人間関係を語るには「猫」という要素をなくしてはならない。

200近くの間がある吉田寮だから、愛猫家、悪猫家、どうでもいい家、などなど様々。

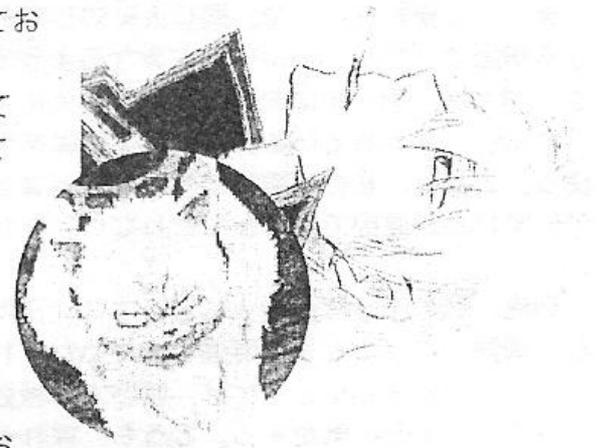
猫でも寮の飼い猫と野良猫の両派がある。飼い猫、野良猫を含めた猫社会には、既に複雑な社会構造が築かれている。多分、ねこ社会の始まりは私たちが入寮した時より遥か昔のことだと思う。

よくあることだが、猫好きな寮生は自分の部屋の前に猫に餌をやる小皿を置いてあったりする。毎日欠かさず餌や水を入れておく人もいれば、気まぐれで不定期にやったりする人もいる。

すると、これはまた奇妙なこととなる。猫は当然餌を求めてやってくる。同時に、猫好きな人も猫を見たり、撫でたりしてやる。猫でも一匹が来たり、数匹が来たり、時にはわずかの餌の為に、挑発的な猫声を上がったたりしている。時には喧嘩することもある。

人だと、二人が居れば、猫に関する会話が楽しくできる。話さなくても、猫を巡ってお互いに視線を交わすことがしばしばである。普段よく会えない人、よく喋らない人でもこのときに、なんと暖かい合図を送ることがある。全く猫のお陰だ。

さらに、猫のよく集まる所にも人がよく集まる。もしかして、その逆、人がよく集まる場所に猫も集まるかもしれない。まあ〜どっちもある。



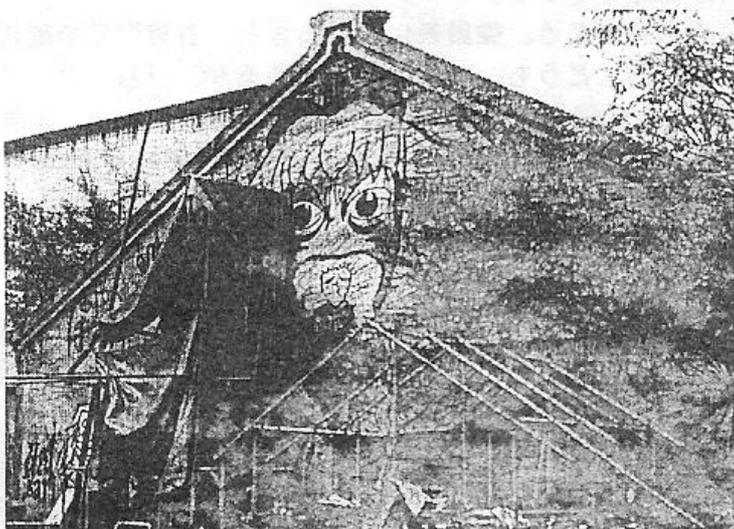
## 話し合いの原則によって築かれた人々の関係

これは最も大事なことである。「話し合いの原則」簡単に言えば、とりあえず皆さん話し合っ、相談して解決しようという素直な考えである。でも、これは現在吉田寮に置いて、あらゆる「関係」の基礎となる。

ちょっと難しいだが、話の上手な人、話の上手ではない人、話やすい人、話づらい人って様々だとおもう。それと、当然猫なんか交流難しいだろうか。でも、所謂「話し合い」の中でも、とりあえず話してみる、話そうと思うことも大事かもしれない。さらに、単に「話す」ことだけではない。姿勢、視線、口調、タイミングなども重要である。

私はそう思う。猫にだって、自分の真意がちゃんと伝えられると思う。

最後に欲望かもしれないが、「話合い」いう大事なことなのに、現在社会にはだんだん忘れられている。いつか、吉田寮によって、社会的に再喚起することでもできたらと思う。



## 吉田寮の庭

吉田寮には広大な庭があります。春には虹色のじゅうたん、夏には濃緑の木々、秋には舞い散るイチヨウ、冬には枯れ葉に白い水仙。このページでは、そんな庭の、美しいだけではない実用的な一面をお伝えしましょう。

その1：採取 無料<sup>タダ</sup>を好む人に向いています。

<春>

ヨモギ…もち米は高いので、小麦粉ヨモギだんごにして味噌汁に入れるのがお勧めです。タンポポ…花の伸びる前（重要！）に、スコップで抜きます。炒めると本当においしい。根っこはコーヒーにするといいのだそうです。ハルジオンと間違えないよう。ノビル…ネギに似た、ネギよりおいしい野菜です。翌年のために、取り過ぎないでね。

<夏>

ドクダミ…花の咲くころ、葉っぱを乾燥させてお茶にします。副作用もあるので注意。枇杷…市販のものよりこぶりですが、甘さは負けません。熟し加減を見極めるのが大切。

<秋>

銀杏…秋の主演です。くれぐれも外皮を素手で触らないこと、それから一度に食べ過ぎないこと。毒の成分を含んでいます。マテバシイ…テニスコートの近くに生えています。生でも食べられ、ほんのり甘いです。ご飯と炊き込むと、まるで栗ごはんです。

<冬>

柿…渋柿ですから、熟熟になって地面に落ちるのを待ちましょう。カラスとの戦いです。

その2：栽培 地道な努力を好む人に向いています。

春に植えたじゃがいも・エンドウ・ハーブ等は豊作でした。しかし夏に植えた作物は虫には食われ、秋の台風にはなぎたおされ。秋冬は忙しくなって植えられませんでした。栽培はなかなか難しい。敵も多いです。とりわけ猫です。ふかふかした土が気に入ったのか、踏み荒らしたり、糞をしたり。柵で覆っても平気で乗り越えてきます。関係ない場所を耕してふかふかにしてみたり、猫が嫌うハーブを植えてみたりしましたが、猫の一番のお気に入りになった場所の栽培は諦めました。虫は、特に夏に要注意です。こまめに巡回し、雑草を抜く必要があります。芽をついばまれないよう、鳥にも注意が必要です。栽培は本当に難しい。

でも、むやみやたらと土を耕すときの爽快感、収穫できたときの喜びは格別でした。畑なら南寮裏が耕し易いのですが、まずは鉢植えからトライするのもいいと思います。詳しくそんな寮生や寮外生に聞いてみると、いろいろ教えてくれますよ。あなたの一年の食生活が豊かなものとなることを祈ります。

建築あるなら やっぱり春!



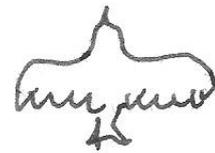
場所 固有の時間というものがあ

時間・空間ユニットを感じるこ

木林に行くといい。水のつぶ粒 土の匂い 青と緑の

透明な明るみ 手を振るようなミダ!

流れる 流れる。鳥もいる。



のように、建物でもこの種の時間空間ユニットがあ

吉田家とかね。原生林とみまごう中庭をそれぞれの

棟が持ち、100年乾燥を保っている大型木造住居。

人は180人ほど住んでいる。毎年50人近くが入れ替

4年間住ましてもらいました。

初めて寝る時、100年もの天井だかと思っ

次日起きたら一瞬どこかわかなくて、

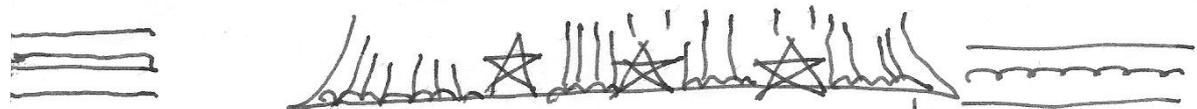
でもいい天井で、あ、今日から毎日ここに帰ってくるのか

と思いドキドキしたことを思い出します。

初めての春はえらく長かった。気前が...程に。

多くの定生・定外生が京都に連れ出してくれ、それは

吉田家のある京都だった。



定食屋の人は誰でも吉田京を知っており、色々な風に話を  
かけてきてくれたね。自分の住んでいる所が色々な話を  
連れてきてくれた。みるみる見方がかわってきた。

恋! した。あ! なに不思議 舞台にも立ち、たり造ち  
た!

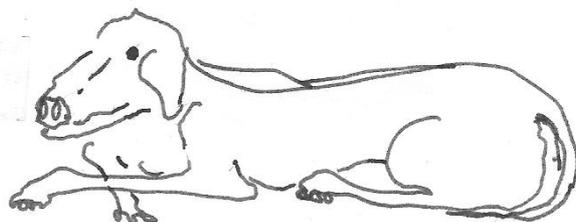
雪がふたふと、黒の夜の百石遍をカチカチの白色にして  
いいもへだった。人が居れば人が集まる。? でしょ。でも  
居ると人が集まる、何かいつも始まるから居たんだね。どこに?

百石遍にテラスのようなのつらつら 櫓、と呼んでたけど。

それが石垣\*カネになる。空気がふるふる!、てふるえて  
場所が出来ちゃう夜。さきまで食堂で話したことが、このま  
夜なのに作業して一日でできちゃう。びっくりだったね。

でも そんな感じは今もそう。なんかあの辺で出来るかな。  
みたいなことを話せる相手がいるから、そう思っているのは  
私だけじゃないはず。

京都に来ると 暇みつけたら、一緒に散歩行きますよ



黒森魚



!!! 所あるお!

## 散歩ノ極意ハ迷子ニナル事ト見ツケタリ

文責：ミギワ

賢明ナル、イヤ賢明デナクトモドウセ構ハナイカラ兎ニ角読者ノ諸君、マガヒナリニモ京都大学ヲ志ス諸君等デアラバ、銀閣寺カラ南禅寺マデ続ク「哲学ノ道」ハ当然ゴ存知ノ通りデアラウ。京都学派ノ最先端トシテ名高キ西田幾多郎先生ガ詮索ノ際ニ歩ンダ道トシテ広ク知ラレ「人は人 吾はわれ也 とにかくに 吾行く道を 吾は行くなり」ト云フ歌ノ刻マレタ石碑ガ其ノ存在ニ花ヲ添ヘテイル。然シテ一方デハ、ソクラテス及ビプラトン研究デ高名ナル田中美知太郎先生ハ此ノ道ガ大衆ノ観光名所トナツタ事ニ対シ「人ハ各各ニ詮索ノ道ヲ有<sup>ヲノヲノ</sup>スルベキデア<sup>タマタマ</sup>ル。彼ノ道ハ偶<sup>アタカ</sup>偶西田幾多郎ガ選ンダ迄デアツテ、其レヲ恰モ自ラノモノトシタカノ様ニ持テ囃スノハ自己ヘノ推敲ガ足りヌ阿呆ノ所業ニ他ナラヌ」ト御立腹デアツタト云ハレテイル。一介ノ学部生ニ過ギヌ小生ニハ此ノ論議ニツイテ云ヒ得ル事ハ極僅カデア<sup>アタカ</sup>ル。一ツ云ヒ得ル事ハ唯一ツ、タツタ一本ノ道ヲ以テ自己ノ寄ル辺トスルニハ京都ハ兎角広過ギル。

勝手ナガラ持論ヲ述ベレバ、寧ロ京都ニ限ツテハ道トイフ概念ガ得テシテ特異デハナカラフカト暫シ思ヘル。此ノ街ニ於ケル「哲学ノ道」ノ如キ趣ノ深キ道ハ、大概ノ場合特定ノ区域ニ集団ヲ成シテイル。個々ノ道ニ限レバ確カニ一見似テハイルガ、一度界限ヲ成セバ立ち所ニ其ノ固有ノ性分ヲ表ス。祇園寺町嵐山東山、京都市ノアチラコチラニカヤウナ道ノ町ガ散在シ、己ノ寄ル辺ヲ一ツニ終始サセルモ町ゴトニ分散サセルモ我ガ存分ノママト為ル。カヤウナ思案ニ基ツケバ、道ガ云云等ト拘ラズ町其レ自体ヲ目的ト為スノガ道理デアラウ。

京都ニ於ケル条里制ハ平安以来古都ノ古キ良キ伝統デアツテ、米国ノスクエア何タラナルモノトハ月トスツポン程ノ違ヒヲ有スル。コノ碁盤目ガ如ク通りノ行き渡ツタ街中ハ何ノ脈絡モ目的モ無ク俳諧スルニハ実ニ好都合デアツテ、先程迄ハ西ニ向ツタカラ次ハ北、暫ク進メバ今度ハ東トイツタ具合ニ、早イ話

ガ犬ガ西向キヤ尾ハ東、己ノ方角音痴ヲ十全ニ發揮サセ得ル。川端ナリ今出川ナリ通りノ名サヘ判レバ直ニ居場所ガ掴メルトイツタ手筈デアアル故、京都ト云フ街ハ如何トモシ難キマデニ彷徨フニ相応シク、寧ロ彼ノ都ガ其レヲ望ンデイルカノ如キ様デアアル。

京ノ都ニ首尾良ク迷フニモ色々ト下拵ヘヲ要スル。地図ハ勿論ノコト、先ズ出来得ル限り遠クマデ行クノデアラバ自転車ニ跨ルノガ宜シイ。加エテ眼鏡モ欠カセヌ。京都ニ限ラズ未知ノ界限ニ臨ムニハウント眼ヲ悪クシテ、初メニ曖昧蒙昧ナ視界ヲ上辺ニテ愉シミ、然ル後ニ眼鏡ノ鮮明明確ナ視界ヲ感嘆ヲ以テ迎ヘルノガ筆舌ニ尽シ難キ愉快デアアル。目安トシテハ円山公園ノ鴨ガビーバーニ見エル位ガ丁度良イ。

其レナリニ目的地ハ決メネバナラヌ、祇園モ良シ寺町モ良シ京都御所デモ又良シ、一先ズ其方ニ向カフ。各各ノ町ノ雰囲気ト空気ヲ存分ニ堪能スレバ後ハ出鱈目氣ノ向クママニウロツキ廻ルダケデ良イ。腹空ケバラメン屋、喉渴ケバ喫茶店、財布次第デハ土産ニ団子ヤラ銘菓ヤラ。カヤウナ散策ト散財ヲ以テ、漸ク京都ハ己ノ何タルカヲ僅カナガラニ立ち表ス。

神社仏閣巡リニ走ルモ一興、鴨川ヲ一途ニ沿フモ一興、大坂デハ在ラヌガ食ヒ倒レニ尽キルモ此レ又一興、京ノ都ハ其ノ趣ノ深く尽キヌコト京都市役所ノ不祥事ノ如クシテ、嚙メバ嚙ム程迷ヘバ迷フ程味ヲ増ス。斯クナル贅沢ノ許サルルハ下宿ヒイテハ寮住マイ故デアリ、此ノ雅ヲカナグリ捨テシ自宅生ナル連中ハ最早正氣ヲ留メズ京大生ノ風上ニモ置ケヌ阿呆デアアル。シカシテ恥ズカシナガラ小生モ未ダ此レヲ極メタトハ云ヒ難イ。時代祭ニモ葵祭ニモ結局去年ハ行ケズ仕舞ヒダツタ。今年コソハ試験ヲ抜ケテデモ祇園祭ニ行カネバナナルマイ。兎ニ角古都ノド真ン中ニ住マヒト大学ガ揃フハ是真ニ至福デアアル。カクシテ小生ハ今日モ京都ノ何処カヲ彷徨フ次第デアアル。

## 「クロネコヤマトの卓球便」

この前ヤマトが配達に来たんで玄関を開けたら、若いお兄ちゃんが卓球のユニフォームを着て荷物を持っていたんです。僕が「え？」って顔してたら、「あ、この制服ですか。「卓球」と宅急便かけてるんです。」と言いついにもなっていない言い訳。「かけてるとかどうでも良いんで、ちゃんと制服着てください。不審ですから。」とクレームをつけたところ、「いやーすみません。実は、昼休みに卓球に夢中になりすぎて、着替える暇がなかったんです。」とのこと。そんなことあるのかよと思いついながらも余りに馬鹿馬鹿しくて、笑いをこらえながら（いや、実際少し笑ってたかも）荷物を受け取りました。

しかし、この間の日曜日も卓球のユニフォームで配達してるのを見ちゃったんです。耳をそばだてて聞いてたら、同じ説明してます。だから、受け取りの印鑑もらってるところに割りこんで言ってやったんです。「この人、以前僕に届けてくれた時も同じ言い訳してました。きっと嘘です」ってね。そしたら受け取り主の人は「嘘でも楽しませてもらったし良いじゃない」なんていうんですよね。確かにそうだよなあと、ユーモアを笑えない自分が急に恥ずかしくなりました。で、配達員はさらに言葉をつぎます。「実は、大野さんに届けた日はほんとに着替える暇なかったんです。けどあの日大野さんがくすっと笑ってたから…ついネタにしちゃったんです。」なんて素敵なエピソードなんだと、当事者であることが嬉しくなっちゃいましたよ。受け取り主の人なんて少し涙してましたね。

感動を胸に玄関を後にしたところ、その配達員が「いやーあの人、すっかりだまされてたね。うっける」とぬかします。すかさず聞き返しました。「え、ちょ、待てよ。あれも嘘かよ？」「そりゃそうだろう。着替える時間もなくなるまで遊ぶなんて社会人として間違ってるでしょう。」なんて真面目顔で言います。「ちょっと、感動を返せよ！」「あー、感動ね感動……」といつい荷台でなにやらごそごそやったあと、段ボール箱を持ってきて開けろといひます。箱には僕の住所と名前の書いた送付票が貼付されてます。開けてみたら、「感動」と大きく書かれた半紙が入ってました。呆れ果てた僕は「お前、おもしれーやつだな！」ってことですっかり意気投合してしまいました。

「ねー大野さん。さっきの玄関先のやりとりをさ、違う家でもやってみない？」

「あーまた割って入っていけばいいのね。」

今思えばこうして悪ノリしてしまったのがいけなかったんです。

何軒か廻っても、不在だったり、別に笑ってくれなかったり、荷物自体が重すぎて2人じゃなきゃ運べない都合でネタできなかつたり（僕がいなかったらどうしたんだか）、結構うまくいかないもんでした。

それでもトラックの中の会話は結構面白かつたりしてー

僕「なかなかうまくいかないんだね。」

配達員「ま、こんなもんですよ。」

僕「ああ、敬語使わなくて良いよ。」

配「や、ほら、大野さん一応お客さんじゃないですか。」

僕「ああ、もう君んとこ絶対使わないし。」

配「あはは、そうだよな。俺自身も俺みたいなのが配達員なら、絶対使わないし。絶対宅急便使うよな」

僕「え、どういうこと？宅急便なんじゃないの？」

配「ああ、うちは卓球便。ピンポンってお邪魔するじゃん？だから、卓球便。そんでもって、宅急便は登録商標だから使えないの。」

僕「え、え、えー！？！？」

配「ああ、登録商標だつて知らない人多いんだよね。」

僕「いや、そこじゃなくてさ。良いの？そんなパクリみたいなことしてて。」

配「え、まあジョークでしたサーセンで、なんとかならんかな？」

僕「いや、宅急便って言葉を登録商標取ってるくらいだし、そこらへんうるさい会社なんだと思うよ。」

配「ああ、じゃあ『僕もヤマトだと騙されてたんです』って言えばOKじゃない？」

僕「ああー、なるほどね。」

配「んで、『小さいころから御社で働くことが夢で…』」

僕「そしたら社長感動しちゃって『まがい会社とはいえ配達経験者なんだし、どうだいうちで働いてみないかい？』とかいってね。」

配「うは、それうまくいきすぎ。『僕、またお客さんからハンコもらっていいんすか？』みたいな」

僕「ははは、お前どういう趣味よ。」

配「ああ、でも卓球自体はほんとに好きなんだよね。」

僕「そうなの？俺も好きでさ、今度やろうぜ。」

配「ああ、うちの会社だったらタダでできるしね。」

僕「あ、卓球やるってのは本当なんだ。」

配「うん、うちみんな卓球好きだよ。だから実はこれが制服みたいなもんなんだわ。うち基本私服なんだけど、昼休み社員同士でいつもやってるから、じゃあユニフォームで仕事するか一みたいな感じで。」

僕「うわ、もうすごい適当。グリップはペン？シェーク？」

配「シェーク。会社の人はシェーク8割ペン2割だね。」

僕「へー。なんか中学のとき卓球部のやつもそう言った。」

配「そう、大体そうなるんだよ。卓球界ではこの現象を『神の見えざる手』と…」

僕「それはジョークだろ。」

配「まあジョークなんだけど、でもアダムスミスも言ってみりゃジョークみたいに言ったんだろうし。」

僕「そういやそうか。」

---

配「あ、そうだ。運送なぞなぞー。」

僕「え、なにになに？」

配「送り主さんは財布を送ったのに、受け取った人の箱にはワイフが入ってました。なぜでしょう!？」

僕「えーちょっと考えるわ。」

配「お、丁度いいことに到着だ。」

次の家は古くていかめしい家でした。玄関にはいかにも生真面目そうな老人が出てきてます。正直、あんまりあのネタはやりたくないなあと思ってたんですよ。印鑑を取って帰って来たタイミングで僕が飛び出して配達員につかみかかり、戻ってきたところで「こいつ常習犯なんです」という段取りになってたんで、

「印鑑じゃなくてサインにしてくれないかなあ」と祈りました。

しかし、祈りもむなしく老人は奥に戻ってしまったのです。よし、ここでやらなきゃ末代への恥だと思って、玄関先に飛び込んだのですが、

配「あ、やばいわ。」

僕「え、やっぱこの人そういうの嫌いそう？」

配「じゃなくて、荷物渡すの隣の家だ。ちょっとドアの裏にでも隠れてて。」

ふと見てみると、ここの表札は「笹谷」隣は「沢谷」です。伝票はカタカナで「サワタニ」と殴り書きだったために、見間違ってしまったんですね。

笹谷氏「ほれ、印鑑を持ってきたぞ。」

配「お客様大変申し訳ございません。お隣の沢谷様と間違えてしまいました。」

笹谷氏「な、なんだと!印鑑をわざわざ取りに行かせた上に間違いで、その上わしと犬猿の仲の沢蟹野郎の荷物を持ってきよったと抜かすか。」

うわ一動物の名前いっぱい出てきてるなあと思って聞いてたら、配達員が悲鳴をあげているのではないですか。どうしたのかとドア越しに覗いてみたところ、なんと印鑑が仕込み小刀になってるんです。配達員は突きつけられた状態で、必死に詫びています。

配「真に申し訳ございませんでした、笹谷様。」

笹谷氏「せっかく笑点をみてたところを邪魔しおって。ゆるさんぞ！」

あ、この人笑点見るなら、笑いで切り抜けられるか？

配「は一、私どもクロネコヤマトではCMでもっておりますように『一步前へ』が社訓でして。生真面目だけどちょっと抜けてる私なんかは、こう、たまに一軒前へお届けしちやったりもして…」

—こいつほんとに口うめ—な。

笹谷氏「ほ—うまいことを言いおる。ただわしはヤマトが嫌いなんじゃ。息子も佐川に勤めておってな。」

そう、そこで僕は丁度ひらめいたのです。

僕「あ、ならちょうど良いじゃないですか。「サ」が「ワ」に見えちゃって間違っただですよ。ほら、この送付票見てください。」

笹谷氏「なになに、ほ—なるほど。そうかそうかヤマトのくせに「サ」が「ワ」になったと。おぬしどこの誰か知らぬが面白いことを言うな。ほれ、もうよいわヤマトよ。とつとつ行け。」

こうして僕たちはなんとか事なきを得て、笹谷家を離れました。沢谷さんの家では特に何もなく(サインだったのでネタもできず)、荷物も今日はこれで最後だったので、そのまま家まで送ってくれました。

失敗したのが、今度卓球しようって約束していたのに連絡先を聞くのを忘れてしまったんですよ。

彼の会社を電話帳で調べても載ってないんですよ。まあ、パチモン会社ですからね。あの運送なぞなぞの答えも気になるし(いくら考えても分からない)、またなんか届けに来るのを気長に待ってみます。

## 麻雀とわたし サトウ

これは私サトウの麻雀に関するよなしごとを記録したものです。

拙筆ですが少しでも楽しんでいただければこれ幸いです。

さて、麻雀には古くから大人の遊戯というイメージがあります。これは将棋・チェスなどとは違い、完全に理論化できないゲームであるからだサトウは考えます。もちろん、牌の枚数や得点に関する効率的な打ち方はありますが、それに加えて運や競争者自身に対する”読み”、そしてそれらを総動員して行われる駆け引きが麻雀における勝利には必要となるのです。

私は麻雀という不完全理論遊戯においてはこの駆け引きこそが重要であり面白さのキモとなる要素だと考えています。もっと言えば、駆け引きを通じた競技者同士の心の交流、それこそが麻雀の真髄であると信じて止みません。個人が持てる理性、感性を以って全力でぶつかり合う。そして勝負が決まる。そこには勝ち負けの差はあれど、共に切磋した仲としてお互いを称えられる関係が残るのです。この誇るべき関係の構築こそが至福であり、麻雀を愛するものをひきつけて止まない極上の一粒なのです。

ここまでつらつらと麻雀について書いてきましたが、皆さんは麻雀に対してどのような印象をお持ちでしょうか。ただ、受験生の読者が大半でしょうから実際に触れたことは少ないのではないかと思います。一般的な麻雀に対するイメージは「賭け事」ということから、あまり良くないものだと思います。ですから麻雀に触れる機会があっても二の足を踏んでしまうことが多いでしょう。しかし、この文章を読んだ皆さんはせめて一度自らを投企して見て頂けるのではないかと。そんなことを思いつつ物狂おしくツモを繰り返す日々でございます。

## 麻雀のススメ

文責：itoken

酒・タバコ・麻雀。墮落した大学生の三大欲求ともいえるものだが、これらをたしなむ吉田寮生の数は多い。わたし自身はタバコは大嫌いなのでなじみがないが、他のふたつには少なからずお世話になっている。酒に関してはほとんどの大学生が多かれ少なかれ飲むことになると思うので、わざわざここであれこれ述べる必要はないだろう。ここでは、麻雀について少し語ってみようと思う。

最近の学生は麻雀をしなくなった、ということのを両親や（京大以外の）友人から聞くことがあるが、京大、特に吉田寮においてはいまだに麻雀は熱いブームである。夜中でも起きている人はたくさんいるのでちょっとがんばればメンツなどすぐ集まるし、麻雀牌や麻雀卓もきちんとあるので、麻雀をするには最適の環境である。さびしい下宿生などは雀荘などに行くのだろうが、あそこはタバコくさいだろう（行ったことはないが）し、向こうだってビジネスでやってるわけだから当然場代もとられる。しかも打つ相手は顔も知らないおっさんだったりするわけだからこわくてしょうがない。一方、吉田寮ではいつも顔を合わせている連中と打つことができるのだから気がラクだし、麻雀はゼロ・サムゲームなので、場代がない以上期待的にマイナスになることはない。

わたしは1回生の3月（2回生になる直前）に麻雀を覚えた。それまではまったくルールがわからず、大部屋で他の寮生がジャラジャラやっている隣でグースカ眠っていた。といっても、麻雀自体には嫌悪感はなかったし、あれだけみんなが夢中になるんだからきっと楽しいはずだ、と思っていた。「いつか必ず覚えるから」と周りには言っていたし、打つ以上はきちんとお金を賭けてやるということも宣言していた。3月にサークルの先輩の家で麻雀を教わり、直後から点3で打っていきなり1着をとってしまった。まだ役も鳴きも知らず、メンゼンで（リーチをかけて）4メンツ1雀頭を揃えるかチートイツを作るかしか和了り方を知らなかった時代のことである。

ビギナーズ・ラック的なものに気をよくして寮でも打つようになったが、しばらくして「役を知らないということは麻雀をやるうえで非常に不利なのではないか」ということに気づき、本を読んで勉強した。さすがにチートイツ以外の役を知らないと何かと不便である。2回生になる頃には鳴きも覚え（そしてそこで少し弱くなるのである）、2回生がわりとヒマだったこともあり、この1年間で自分でもビックリするほど麻雀を打った。麻雀という娯楽はすごいと思う。かりにトランプやウノで8時間過ごせといわれたらちょっと難しいと思わざるをえないが、麻雀をやっていると時間が経つなどあつというまでである（そして、あつというまに数年間が過ぎ5回生以上になる人が大量に生み出されるのである）。

吉田寮での麻雀は主に「われめ」というルールで行われる。サイコロを振って山がわかれたところにいる人の点数の収支が2倍になるというルールで、ドラ表示牌も最初から2枚存在する。つまりはインフレルールなのである。吉田寮以外の友人にはこのルールを嫌う人が大変多いが、さっさとトビを出して気持ちを切り替えて次、という感じでサクサク進めるあたり、わたしは「われめ」ルールが好きである。

レートはまちまちだが、ウマが10・30の点2か点3が「基本」である。この「基本」というのがくせもので、「基本」に飽き足りない人たちは点5・点10・点20などを打つわけである。わたしはこれまで高レート麻雀で負けたことはなかったが、先日点20で45,800円負けてしまい、大金を負けた人がよくやるように「もう賭け麻雀はしません」の貼り紙を出した。が、次の日にはもうやっていた。麻雀は楽しい。

## Sクラス麻雀

## ⑤ 入角 梟太郎

吉田良にて伝説的な闘牌を続けてきた筆者が、その異端り麻雀理論をここに公開する。ぜひ参考にしてほしい

## ① アタリ牌のヨミ

- ・ 字牌は当然通る。スジも大体通る。無スジは逆に通る
- ・ カバの外(八萬四枚切りの九萬)は通る。しかし、カバの内側も裏は通る
- ・ をみれば相手、待ち牌はごく僅か。利てツモられるくらいなら、果敢に攻めた方が、逆に相手の和了を潰せる

## ② 牌の流れ・運の理論

- ・ 全ての戦象には流れがある
- ・ 麻雀は運を奪い合うゲームである。その意味では麻雀は人生に似ている
- ・ 四人の総運量は一定である。人々な和了で運をムダ遣いしては行かない。他家の運を浪費させる様な打ち方をすれば

## ③ ドラの扱い

- ・ ドラは絞リすぎるとカンと化す。早く見切れば流れが良くなる
- ・ ドラを捨てる他家の運を奪取するので、自分の和了確率があがる  
「ドラ捨ててこそアがる手キあれ」



By 宮西

ロケットの打ち上げを見に行くべき！ どうせ暇なんだから！

#### ◆打ち上げの楽しみってなんだろう？

人によって楽しみ方は違うとは思いますが。

射点ぎりぎりまで近付いて打ち上げの迫力を素直に楽しむ人もいれば、純粹にロケットそれ自体が好きなの人もいるし、打ち上げに非日常的な何かを期待してやってくる人もいますよね。

また、ロケットの先端の探査機の行先(月や火星、金星、小惑星など目的地は様々です)に思いを馳せて、そこにたどりつくまでの何億 km もの旅路の最初の一步を見届けにくる人もいます。私はたぶんこのタイプだろうなあ。

#### ◆ロケット打ち上げってどんな感じなの？音とか光とかすごい？

私が生まれてはじめてみた打ち上げは、2009年9月11日午前2時1分46秒、種子島宇宙センターから打ち上げられたH2Bロケット初号機でした。

偶然出会った三菱重工の社員の方(要するに人工衛星を制作している会社の人)の案内で、私は射点からわずか3kmの地点から打ち上げを見物しましたが、あれは衝撃的でした。あれはすごい。すごいを通り過ぎてやばい。

具体的にどうやばいか、言葉ではちょっと表現できないのが残念です。

音についてですが、H2A、H2Bロケットのメインエンジン・LE-7の咆哮は50km離れていても容易に聞こえます。遠雷のような音だそうです。

射点から3km地点では、腹が底からゆさぶられるような轟音で、雷を何百発も炸裂させたような凄まじい音です。あの音は生きているうちに一度は聞くべきじゃないでしょうか。南種子町の人に聞いた話では、昔はロケットの音でガラスが割れることもあったといいます。

光について。水素と酸素を化合させて推進力を生み出すLE-7エンジンの炎はほとんど無色透明に近い静かな青色なのですが、機体の両脇についている固体燃料ロケット(SRB)の発する光が、もうそれはそれはすごいのです。

太陽にも負けないくらいの強烈な白光です。私が見たH2Bロケットの夜間打ち上げでは、打ち上げの刹那、誇張抜きに周囲が昼になりました。

このとき、強烈な光を放ちながら上昇していくH2Bロケットは本土からも目撃され、種子島からはるか離れた大阪からも見えたそうです。

#### ◆打ち上げを見に行きたいのだけれど、いつ、どこにいったら見られるの？

日本のロケット射場は国内に二か所あり、ひとつは鹿児島県大隅半島の内之浦宇宙空間観測所、もうひとつは鹿児島県種子島の種子島宇宙センターです。

内之浦宇宙空間観測所は日本最初の人工衛星を打ち上げた場所として有名で、数年前まではM-Vという世界最大の固体燃料の宇宙ロケットを打ち上げていましたが、いまは小型の観測ロケットの打ち上げと人工衛星の追跡管制業務のみを行っています。

現在、日本の宇宙ロケットの打ち上げはすべて種子島宇宙センターにて行われています。

打ち上げは年に3-4回ほどなので、打ち上げ時期についてはJAXAのサイトを参照してください。私、宮西に聞いてくれてもいいかも。

なお、ロケットの打ち上げは、天候、機械トラブルなど様々な要因で順延したり、最悪の場合は中止になることがあります。だから、数日程度なら島内にとどまれるよう

余裕のある日程で行くのがいいと思います。

打ち上げ中止や順延はしょっちゅうなので、ロケットの打ち上げが見れなくても無駄足にならないよう、他にも観光の予定を入れておくのがいいと思います。

#### ◆2010年度の宇宙ロケット打ち上げ予定一覧

打ち上げ予定	打ち上げロケット	搭載衛星/ミッション
2010年5月末 ～6月上旬	H2A 17号機	金星探査機「あかつき」 小型太陽電力セイル実験機「IKAROS」
2010年夏季	H2A 18号機	準天頂衛星初号機「みちびき」
2010年冬季	H2B 2号機	宇宙ステーション補給機(HTV)運用機

#### ◆用語説明

H2A ロケット…全長 52.5 メートル、重量 285 トンの日本の主力大型ロケットです。

純国産ロケット H2 の後継機で、多様な輸送需要に高い信頼性を確保しつつ低コストで対応するために開発され、世界有数のコストパフォーマンスを誇っています。

H2B ロケット…全長 56.6 メートル、重量 531 トンの国内最大の宇宙ロケットで、H2A と併せて運用することで多様な打ち上げニーズに対応することができます。

「あかつき」…世界初の金星の気象衛星で、これまでの気象学では説明がつかなかった金星のダイナミックなお天気の謎を解き明かします。

「IKAROS」…太陽光を巨大な帆(太陽帆・ソーラーセイル)で受けて、その「光子圧」を推進力として利用する、世界最初の太陽帆船です。つまり、光さえあれば推進剤を一切使わないで好きなだけ加速・減速ができる夢の宇宙船なのです。IKAROS は光子加速で金星をめざし、光子加速による軌道制御技術を取得します。IKAROS の後継機は太陽帆とイオンエンジンを組み合わせたハイブリッド宇宙船で、木星と木星近傍の小惑星群を探査する予定です。

「みちびき」…準天頂衛星システムの初号機で、米国が提供する GPS サービスの弱点を補って日本国内での GPS の精度を劇的に向上させます。測位情報の向上は犯罪抑止や救難、交通事故を未然に防ぐ等、個人生活の安心安全に寄与することが見込まれます。

「HTV」…H2B ロケットで打ち上げられる日本の無人補給船です。スペースシャトル退役後は宇宙ステーションへの物資輸送ミッションの大部分を引き受けます。

また、HTV の運用を通じて、将来の有人輸送の基盤となる技術を蓄積することが見込まれています。

#### ◆種子島へのアクセス

大阪国際空港(伊丹空港)から種子島空港へ直通の飛行機が出ているようですが、金をケチりたい人は高速バスとフェリーを利用するのがいいんじゃないかな。

京都・大阪～鹿児島港

→高速バス利用で約 10 時間、4500 円～10000 円程度。

鹿児島港～種子島・西の表(にしのひょう)港

→フェリー「はいびすかす」で約 4 時間、片道 3000 円。

→ジェットfoil「トッピー」「ロケット」で約 1 時間半、片道 5700 円。

ジェットfoilは混みやすく、予約が必要な場合があるほか、天候や海面の状況によりいきなり欠航することがあるため、あまり欠航しない「はいびすかす」の利用を

強くおすすめします。

私は以前、ジェットフォイルを信じて痛い目に遭いました。

なお、飛行機で鹿児島空港から種子島空港へ渡ることもできます。お値段は片道 12000 円くらい。

#### ◆種子島島内の移動

種子島は縦に非常に長い島なのですが、フェリーが着く西の表港は島の北端で、ロケットが打ち上げられる宇宙センターは島のほぼ南端です。

人家、商店はまばらですので、自転車、徒歩での移動は相当に厳しいでしょう。

島内の移動はレンタカーもしくはタクシー、公共バスの利用をおすすめします。

島内の滞在についてですが、拠点の中種子(なかたね)町か南種子(みなみたね)町がいいんじゃないかな。種子島にしては珍しく、スーパーやコンビニ、数件の民宿があり、長期の滞在にも耐えられます。

南種子町からは後述する展望台の大半へのアクセスが楽なので、私は南種子町を拠点に決めています。

なお、宇宙センター内へのバス便は週に数本程度しかないので、センター内を見学したいなら徒歩もしくは自転車、マイカーでアクセスしないといけません。徒歩だと南種子から往復 8km ほど歩くことになりそう。

#### ◆打ち上げ見学場所

ロケット打ち上げとエンジン燃焼日の当日は、安全面への配慮から、種子島宇宙センター全域と射点から半径 3 km 圏内への立ち入りが禁止されます。

打ち上げの見学は、センターの外で射点から 3km 以上離れたところならどこでも可能ですが、宇宙が丘公園、前之峰グラウンド、長谷展望公園は特によく見える場所として有名です。

これらの場所には打ち上げ直前には数百人から千人ほどの人がつめかけてきます。

たこ焼きやフランクフルトの屋台も出てくるし、何を勘違いしたのか浴衣を着ている人も来る。その様子はまるで花火大会か何かみたい。

じっさい、一種のお祭りなんだろうと思います。

みんなで大声出してカウントダウンするのはそれはそれで楽しいのだろうけれど、立ち入り禁止区域ギリギリまで近寄りたい人、静かなところでひっそりと打ち上げを楽しみたい人は私に聞いてください。とっておきの場所があります。

#### ◆最後に

2010 年 5-6 月に打ち上げる H2A17 号機の打ち上げを見に行こうと思っています。

寮内でも掲示を出す予定なので、興味のある人は私、宮西まで！